

# いよいよこの夏開幕！ 「水都大阪2009」

瀬戸内の海を渡り、難波津に新しい技術や文化が流れ込んだ古代から、「天下の台所」と呼ばれた時代を経て、「東洋のマンチェスター」と例えられた近代に至るまで、大阪に常に恵みをもたらしてきた「川」。大阪にとっての「川」をいま一度見直し、美しい「水の都」の復興を広く伝えるイベント「水都大阪2009」が今夏、開幕する。



大阪府所蔵／Osaka Archives



水都朝市リバーカフェ  
(イメージ)

「川と生きる都市・大阪」をテーマに、2009年8月22日～10月12日の52日間、中之島公園・八軒家浜と水の回廊エリアを主会場として開催される「水都大阪2009」。今なぜ大阪は「水の都」として再生しようとしているのだろうか。

## 「水の都」であった大阪

かつて大阪には、淀川を幹にしてまちの隅々にまで枝分かれして川が流れていた。今も残る、道頓堀や長堀などの地名が示すように、縦横無尽に開削された堀川は都市の物流を担う重要なインフラとしてまちに潤いと活気をもたらし、大阪を「天下の台所」と称される一大商工業都市へと導いた。

川面に浮かぶ無数の船、川辺に並ぶ市場はその繁栄ぶりを象徴し、道頓堀の芝居小屋に見物に来る人や中之島で夕涼みを楽しむ人々のにぎやかな声で川辺はいつもあふれていた。また、豪商たちの名を冠した淀屋橋、常安橋に代表される「八百八橋」は町人たちの誇りでもあった。まさに「水の都」と呼ぶにふさわしい、川と密着した豊かな暮らしが大阪にはあったのである。

戦後、モータリゼーションの発達で川や堀が埋め立てられ、かつての景観や機能は失われてしまった。しかし近年、それでもまだ大阪市域の約1割を占める河川や、世界的にも珍しい都心部を囲む川を新たな景観づくりやにぎわいづくりに活用して「水の都」としての魅力を取り戻し、大阪

都心部の再生につなげようという取り組みが始まった。

都心部を囲む川を「水の回廊(堂島川・土佐堀川・木津川・道頓堀川・東横堀川が形成する口の字型の回廊)」と名付け、船着場を建設したり、水辺や橋のライトアップに取り組むなど、川や水辺のにぎわいを取り戻すためのさまざまなプロジェクトが進行している。こうしたハード面の整備が進むなか、大阪の活性化に向けて、歴史的、地理的、文化的都市資産を最大限に活用したまちづくりの重要性を認識し、「水の都・大阪」の魅力を広く伝えるための“シンボルイベント”として開催されるのが「水都大阪2009」である。

## 水都大阪2009とは

2009年は、1885年の大洪水を機に水害対策として行われた、淀川改良工事の竣工式から100年にあたる。また、中之島公園や八軒家浜の整備もほぼ完了し、ほたるまちもオープンするなど、水都大阪のシンボリックな場所の景観が大きく変わった記念すべき年でもあり、まさに“シンボルイベント”を実施するのにふさわしい年。

大阪府、大阪市、経済界、市民が一体となつてつくりあげる「水都大阪2009」のキーワードは、“連携・継承・継続”。「新たな仕組みやネットワークなどをできる限り開催後に残していくこと」そし

て「できるだけ多くの市民に企画から運営・実施まで参画を仰ぎ、大阪のまちづくりのムーブメントを高めていくこと」をめざして開催される。

各プログラムは美しい都市空間を実現し、市民と協働できるものとしての「アート」と「市民参加」を軸に展開。「水の回廊」を使った、バラエティーに富んだまち歩きと川クルーズ体験コース、中之島公園、八軒家浜などで行われるアーティスト工房や参加型アートプログラム(ワークショップ)、アート船の巡航や船着場での朝市やリバーマーケット、水辺を歩いて歴史的建造物などを巡る水都アート回廊等々、盛りだくさんのプログラムが用意されている。また、夜には中之島公園や八軒家浜会場で光による演出も行われる。約2カ月の会期中、大阪市内各所で川と人をつなぎ、水辺の楽しさを再発見できるさまざまな仕掛けや楽しいイベントが繰り広げられる。

「水都大阪2009」が開催される今年、大阪が水の都としてのアイデンティティーをもって歩み出す、まさに「水都元年」。「水都大阪2009」を一過性のイベントとして終わらせることなく、これを契機に、生命の源である「水」、人間活動の場としての「川」をいま一度見直すとともに、「水都大阪」再生に向けたまちづくりムーブメントを起こし、「大阪」=「水都」というまちのブランドの確立と発信を行い、文化の力で大阪のまちを元気にする運動が将来に継承・継続されることをめざしていく。

### ■水都大阪2009 開催概要

名称	水都大阪2009
期間	8月22日(土)～10月12日(月・祝)52日間
会場	中之島公園、八軒家浜、水の回廊エリア 他
主催	水都大阪2009実行委員会(会長：平松邦夫・大阪市長) 構成団体：近畿経済産業局・近畿地方整備局・近畿運輸局・大阪府・ 大阪市・関西経済連合会・大阪商工会議所・関西経済同友会・ 大阪21世紀協会・大阪観光コンベンション協会
テーマ	川と生きる都市・大阪
キーワード	連携・継承・継続
コンセプト	①水都大阪の魅力を生み出し、世界に発信 ②市民が主役となる、元気で美しい大阪づくり ③開催効果が持続し、都市資産や仕組みが集積されていくまちづくり
プロデューサー	北川フラム(アートディレクター)・橋爪紳也(大阪府立大学教授)



「水の都・大阪」の復興を告げるシンボルイベント、「水都大阪2009」。  
そこに込められたメッセージ、「水都」と「アート」のコラボレーション誕生秘話、  
今後の水都への思いなどを「水都大阪2009」のプロデューサー、北川フラム氏に聞いた。

## アートで伝える 「大阪の寛容な精神性」

——「水都大阪2009」を通して伝えたいこととは。  
北川：「大阪の力がどこにあるのかをもう一度見直すきっかけを作り、そこから大阪を再出発させよう」というのが水都の事業の始まりでした。そして、経済界と大阪府、大阪市の3者が組み、「将来に続く大阪の力の芽出し」として企画されたのが「水都大阪2009」です。大阪の力とは何か。一つには地政学的な優位性があげられます。瀬戸内海のへそにあたる位置にある大阪は、日本のみならずアジアやミクロネシアを含めても海の要衝でした。海と川、そして陸の結節点だったのです。

結節点であるがゆえに、大阪にはいろいろな人が集まりました。特に、大阪が大大阪と呼ばれていた1910年代には、沖縄や九州地方、アジアの国々からの人々、そしてそれぞれの土地で生きにくさを感じていた人々が、第二の人生や可能性を求めて大阪にやってきました。経済的にも精神的にも、こうしたすべての人を受け入れるだけの度量が大阪にはあったんです。「水都大阪2009」の中では、大阪を象徴する「水」と「人のるつぼとなることに寛容な精神性」を明らかにしたいと考えました。

——「水都」と「アート」が結びついた理由は。  
北川：「水」の要素は、中之島や水辺を舞台にしたり、川を使ったプログラムを取り入れて表現することにしました。そして、「人のるつぼ」や「大阪の精神性」をどのように表現しようかと考えたとき、「アーティスト」だと思いついたんです。

現代は、何をすることも「スタンダードに倣って」とか「うまく」「早く」やることに価値を置く考え方が主流です。だから、インターネットや携帯電話は驚くほど普及したし、最新スポットにはみんなが一斉に押しかける。そうして人間をマスとして扱う価値観が生まれてしまった。そんななか、アートだけが「人と違う」ことが評価される。つまり、アートは「人間は多様で、一人ひとり違うことが素晴ら

しい」ということを表現している唯一のものなわけ  
です。

今回、アーティストに協力してもらったのは、彼らが「みんなと違うこと」をやろうとしている人間たちの代表だから。そのユニークな活動を許容することが「人のるつぼとなることに寛容な大阪の精神性」を見直すきっかけになると考えたんです。それに全国からやって来るアーティストや参加者に、「大阪はおもしろいことをやらせてくれる」「大阪ならいろいろな人と交流できる」と伝えるにはアートが一番わかりやすいです。あともう一つ。アートは、生産力はないし、手はかかるし、赤ん坊のようなものです。だけど、それをみんなで協力してケアしていくことで、人と人がつながっていく。経済的なものだけが人間のつながりじゃないということも伝えたかった。これらがアート登場の理由です。

## 「どうせ行くなら踊らにゃ損」 —ワークショップでぜひいろいろな体験を

——52日間、本当にいろいろなプログラムが展開されます。おすすめの楽しみ方は。

北川：52日間ずっとここへ来たら、子どもたちは10

五感全開で  
楽しんでほしい  
「水都大阪2009」

北川 フラム 氏

Fram Kitagawa

水都大阪2009プロデューサー

(アートディレクター・アートフロントギャラリー代表)

年分くらいの遊びができるかもしれませんね。私たちが配慮したのは、多種多様な人たちが出会える場を作るようにしたことだけ。本当にいろいろなワークショップがあり、実のところ私にもどうなるかわかりません。とにかく、人間の全活動をここでやってもらいたいというのがプロデューサーとしての願いです。「見る」という行為は、他人事というか非常に第三者的。だから、「見る」だけではなく、実際に「触る」「聞く」「味わう」など、五感を全開させて、いろいろな体験をしてもらった方が断然おもしろいと思いますね。「どうせ行くなら、踊らにゃ損」の精神で遊んでください。

元来、大阪は「遊び」の文化が息づいていたまち。それが「貧すれば鈍する」でそんな風土が薄れてきた。良くない傾向です。よそから来た人の活躍もおもしろがって応援する大阪の気質を取り戻し、大阪のファンを増やさなくては。そうすれば「大阪には活躍の場がある」と人が集まるようになる。そういう場所を、今回、大阪が作ったことが重要だと思いますね。

——100組を超えるアーティストが全国から集まるそうですね。

北川：よくこれだけ素晴らしいアーティストたちが集まってくれました。「大阪が大変だ、自分もかか

わらなければ」とみんなが危機感を持ってくれたのだと思います。あとは「自分こそ『水都大阪2009』の主人公だ」と思って取り組んでいるアーティストのエネルギーに賭けたいですね。私は彼らの力を信じています。みんな飛び跳ねてくれると思いますよ。

この種のイベントで重要なのは口コミです。すでに自分のブログで準備の様子などを紹介してくれている人たちもいると思いますが、52日間なんてあつという間ですから、スタートダッシュをかけたいですね。口コミの力を通して、大阪がかつて持っていたエネルギーが見えてくるといいなと思っています。

## 市民一人ひとりの力で 大阪を「水都」に

——「水都大阪2009」を今後のまちづくりにどのように生かしていけばよいのでしょうか。

北川：『水都大阪2009』はおもしろかった」となれば、何らかの形でつながっていくでしょう。そうなれば、今後の事業の芽出しという役割は十分果たしたことになります。まずは、各プログラムの位置づけと評価をきちんとすべきでしょうね。

バルセロナ出身のアーティスト、ジョアン・ミロは晩年、「僕のすべてはガウディのグエル公園での体験だ」と語っていたそうです。子どものころ、そこで遊んだ経験が自分をつくったというのです。「水都大阪2009」にやってきた子どもたちのうち、一人でも、のちのち「あの夏、中之島で体験したことが自分の人生にとって大きな意味があった」と言ってくれたらすごいことだと思いますね。そんな出会いが生まれることを信じて、取り組んでいます。

大阪には「水都」といえるだけの水を活用したアクティビティがまだ少ないのが実情です。夜景が美しいのは、一軒一軒の家の明かりが輝いているから。それと同じで、大阪が水都と認められるために本当に必要なのは、市民一人ひとりの力なんです。例えば、川に面したビルやマンションの窓一つひとつに草花のプランターを置くことでもいい。一軒一軒訪ねて、口説いていけばみんなの意識はすぐ変わってくると思います。時間はかかりますが、今後はそういう活動も進めていくべきだと思いますね。



# 「水の都・大阪」を体感する52日間

52日間の会期中、水辺に親しむ多種多様なプログラムで中之島公園は夢と灯りのアイランドに。昼と夜、それぞれ違った表情を見せる川辺を楽しみ、「川と生きる都市・大阪」の魅力が再発見できる。

## “水辺を楽しむ100の方法” ユニークなものづくり体験～中之島公園・中之島水辺会場～

中之島公園には全国から100組を超えるアーティストが集結。“水辺を楽しむ100の方法”と銘打った、子どもから大人まで楽しめる参加型アートプログラム(ワークショップ)が会期中、毎日実施される。アートプログラムのテーマは“アートがつなぐ水都大阪”。ペットボトルやビニール袋、身の回りの廃材を使った「飾り」や「灯り」作り、不用なスポーツシューズからサンダルや小物を作る靴職人との協働企画など、アーティストが来場者と一緒にもものづくりに取り組むアーティスト工房やワークショップ、パフォーマンスなど「水辺の文化座」と名付けられた広場を中心に、五感

を刺激し、水辺を楽しむさまざまなイベントが繰り広げられる。

ほかにも大阪の夜を幻想的な風景に変える「灯りプログラム」や錦橋、難波橋、天神橋を美しく彩る「橋梁ライトアップ」、アーティストが装飾した船が水の回廊を航行する「アート船プログラム」など目に楽しいプログラムも。市民企画プログラム「水辺の社会実験」では、川と川辺で楽しむさまざまな市民アイデアが結集。また、船が行き交う川や緑美しい中之島を望む抜群のロケーションで食事が楽しめる「北浜テラス(大阪川床)」は、大阪の新たな風物詩として注目される。

### ●中之島公園会場へのアクセス

京阪電車中之島線「なにわ橋」下車すぐ。または、地下鉄堺筋線・京阪電車「北浜」徒歩3分

## 必見、ナイトプログラム「水の回廊・時空の架け橋」～八軒家浜会場～

「時を刻む柱時計」「川をまたぎ都市を結ぶ橋」をテーマに、光で彩る橋をイメージした大きな時計がシンボルオブジェとして登場。昼間は橋をイメージしたオブジェ、夜は時空を駆ける時計と、時によって変化を見せる。また、夜間にはオブジェのウォーターカーテンを使ったショーを展開。「大阪の歴史、文化、水辺の生活」をテーマに、水・映像・光・音楽をシンクロさせ、夜に浮かぶ絵本のような幻想的な世界が作り出される。

「水都朝市リバーカフェ」は季節の食材、全国の特



水辺の文化座(イメージ)



水辺の文化座の近景(イメージ)



ナイトプログラム(イメージ)



水都大阪2009会場MAP



産品を船に乗せて船着き場で販売する水都大阪らしいプログラム。川を舞台に、大阪のもう一つの魅力、「食」も堪能することができる。

#### ●八軒家浜会場へのアクセス

地下鉄谷町線・京阪電車「天満橋」下車すぐ。

\* 夜間の演出は会期中の月曜を除く毎日開催。

## 大阪の魅力を再発見！「クルーズ&ウォーク／OSAKA旅∞」～水の回廊～

まち歩きと川のクルーズを組み合わせた「クルーズ&ウォーク／OSAKA旅∞(たびめがね)」では、まちを知り尽くした地元市民ガイドが水都大阪ならではの究極のまち遊びプランを提案。“近代建築とスイーツ探検”“下町グルメ”“寺町巡り”など10数種類のコースがラインナップされている。

水の回廊沿いの4つの船着場では、コンサートやカフェなど、地域と協働したさまざまなにぎわいプログラムが来場者を楽しませる。



クルーズ&amp;ウォーク／OSAKA旅∞(イメージ)

## 「水都アート回廊」で大阪の歴史や文化を体感～まちなか会場～

大阪を象徴する歴史的な建物や空間がアート作品とコラボレート。中之島周辺の水辺を歩きながら大阪が持つ歴史や文化を体感できる「水都アート回廊」が展開される。市民から作品を募った、大阪の魅力を再発見する写真と言葉のコンテスト「大阪ステキ発見」の作品展示も行われる。

このほか、国内外から多彩なパネリストを招いたシンポジウムを開催。水都再生に向けた叡智の集積とネットワークの構築、大阪の都市力の向上・発展をはかる。

### 水都大阪2009記念シンポジウム

日時 9月22日(火・祝)

会場 リーガロイヤルホテル大阪

主催 大阪大学および水都大阪2009実行委員会

参加費 1,000円(予定)

水辺と人をつなぎ、人と人をつなぎ、大阪の歴史と現在を未来につなげるプログラムが盛りだくさんの「水都大阪2009」。この夏、水辺の心地よさを五感で体験しに出かけてみてはいかがだろうか。

(地域連携部 佐野由美)

\*プログラムの詳細は水都大阪2009ホームページ(<http://www.suito-osaka2009.jp/>)を参照。